大正貳年八月十日發行（毎月一回二十五日發行）

婦人新報

第百八拾壹號

八月號

矢島會長と其筆蹟

日本基督教婦人矯風會

婦人新報第百八十一號目次

社説

嗚呼明治天皇陛下

講演

感化の力　救世軍大佐　山室軍平氏

矢野氏の藝妓論を讀む　早大教授　安部磯雄氏

もしほ草

時事雑感　廓清會理事　益富政助氏

婦人と讀書　――記者

ホーム

家庭の教育

家庭の衛生

家庭重寶記

はたらき

第二十回矯風會大會　會場書記　安中花子

過ぎし一年間　萬國本部派出員　ミス、デビス

明治四十四年度會計報告　會計　小崎千代子

同　記錄書記報告　書記　井深花子

社告

◎婦人新報定價（郵税共）

一部（前金）　金六錢

六部（前金）　金三十五錢

十二部（前金）　金七十錢

（郵券代用一割増）

◎廣告料

一行（五號活字）　金十錢

大正元年八月八日印刷
大正元年八月十日發行

發行兼印刷人　矢島楫

編輯人　高原・孝

發行所　婦人新報社　東京市麹町區上二番町卅三　矢島方

編輯及事務所　麹町區上二番町卅三　矢島方

No.181　AUGUST. 1912

WOMAN'S HERALD.

CONTENTS.

His Majesty, the Emperor's Death. ....Editor

Influence... ....Mr. Yamamuro.

Mr. Yano's Book on the Geisha. ....Mr. I. Abe.

Corrent Topics ....Mr. Masutomi.

Meetiug of the 20th Convention.

Report given by ....Miss Davis.

W. C. T. U. News.

FUJIN SHIMPO OFFICE.

c/o Mrs. Yajima, No. 33 Kaminibanchō Kojimachi, Tokyo.

70 sen per Annum. Single Copy 6 sen.

東宮並びに各宮家御用品

暑中と衣裳比薫

暑さきびしき此の頃大切なお召物に虫の付かぬ様簞笥夜具櫃の一ツ一ツにもれなく

衣裳比薫

をお入れ遊せば御心配は更に御座いません、其の上、床しい移り香を御召物に止めますから、交際場裡の方々には對する人に快感を與へ人格を高むる理想の香料紳士淑女は必ず御使用遊ばせ!!!

●嬌風會員の御方は婦人新報社へ
關西の會員諸姉は大阪支部へ盛に御注文を乞ふ

發賣元 東京大阪 東籬園

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大行天皇陛下の崩御を悼み奉る

嗚呼、一天萬乘の聖天子大行天皇陛下には、明治四十五年七月三十日午前零時四十三分、六千萬赤子が熱き禱りの内に、遂に御英靈遙かに祖宗の列に入り給ひぬ。悲しくも、歎はしきの至りなり。顧へば去ぬる二十日、初めて御不豫の報を承りてより、我等臣民の驚きと、悲しみは抑も如何ばかり深かりけん、血を絞り骨を削り、さては恐多き事ながら身を以て御病苦に代り奉りても御平癒の一日も速ならん事を祈り奉りしに、終に御不諱の報せに接す。悼ましの限りならずやこと別けて皇后陛下におかせられては、連日御衣をも御召替へ遊ばされず、御看病に身も心も捧げ給ひたりけるを、畏くも婦人のかゝみぞと感佩申上げ奉りしに、あへなく神崩れさせ給ふ。國母陛下の御愁ひ、御歎きは、あゝ如何あるべきや。哭はしきの極みなりけり。

つら〳〵惟みるに、大行天皇陛下は、御年少うして御位に即かせ給ひしより、維新の大業を成就し、王政を古に復し、東洋には未だ其例しもなかりし頃、憲法を發布して政を民草と共にし給ひし事は申すも愚か、われらには信仰の自由を與へ給ひて、再び宗教上の迫害を知らずなりぬ。之も亦限りなき御聖德の一班といとも畏く、此他四十有五年の御治世中には、御仁政の數々擧げて數ふべくもあらず。殊に陛下平素姨も御情深くおはしまして、我等臣民を愛しみ給ふこと、まこと慈母の赤子に於けるが如かりき。さるを今俄に崩れさせ給ふ。あはれ悲しき哉。悼ましき哉。茲に謹みて哀悼し奉る。

大正元年八月一日謹記

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

嗚呼明治天皇陛下

我等六千萬國民が、日夜慈父の如く、慈母の如く愛慕して措かざりし明治天皇陛下には、去る明治三十七年冬頃より糖尿病に罹らせられ、遂に三十九年一月末より慢性腎臟炎御併發あらせられ、爾來御病勢多少御増減あらせられし所、七月十四日御腸胃に御故障あらせられ、翌十五日より少々御嗜眠の御傾向あらせられしに十八日以來御嗜眠は一層御増加御食氣減少し、十九日午後より御精神少しく恍惚の御状態にて御腦症あらせられ、御尿量頓に甚しく減少、同日夕刻より突然御發熱御體温四十度五分に昇騰、御脈百〇四至御呼吸三十八回にして廿日午前九時侍醫頭醫學博士男爵岡玄卿東京帝國大學醫科大學教授醫學博士青山胤通、及び東京帝國大學醫科大學教授醫學博士三浦謹之助拜診の上、尿毒の御症たる旨上申に及びし由、官報を以て公布せられました。

其後御病症は一浮一沈の御状態にあらせられ、皇后陛下を始め奉り、各宮殿下の御焦慮は申すも更なり、元老大臣より我々一平民の身に至る迄、億兆臣民は憂慮措く能はず、切に御平癒の一日も速かならん事を祈りて已まざりしに遂に神崩れさせ給ひ、恐懼の至りに堪へない次第であります。

伏して惟みるに、至尊の民を愛し政に御精勵遊ばさるゝ事は、申すも畏き事にまして、炎暑酷寒をも厭はせられず、專ら政務を覽はせられ、偏に御精神の旺盛に渉らせられ、玉體の健全に在しますに因るものとのみ思つて居りましたるに、宮内省の公布に依りますると、三十七年末よりの御病症でありまして今迄御健全とのみ拜し奉つて居りましたのは、全く平素の御攝生と御病氣に屈しさせ給はざる剛勇なる御氣力との然らしめたる所と推察し奉り、誠に恐れ多い事でありました。

言はまくも畏き我　明治天皇陛下は、孝明天皇の第二の皇子におはしまして御諱を睦仁と申

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し奉り、嘉永五年九月二十二日（當月にて御歳滿五十九歳九ヶ月に渉らせらる）の御降誕で、後新暦に改算して十一月三日と定められました。萬延元年六月十日、儲君御決定、慶應二年正月九日御踐祚、明治元年八月二十七日御卽位の大禮を行はせられて、萬世一系の皇統を繼せ給ひました。

陛下御位に卽かせらるゝの初め、内には五條の御誓文を發布して、いと早く開國進取の國是を定めさせ給ひ、源頼朝以來七百餘年の間武家に御委任あらせられたる政權並に兵權を併せ收めて、萬機を御親裁の制度に復さしめ給ひ、外は世界列國に交誼を篤くして修好通商の道を親善圓滿ならしめ、遂に萬代不易の憲法を制定して東洋唯一の立憲政治を行はせ給ひ、大に國運の隆昌を致し、民庶の幸福を進め給ひつる御功業の隆んなること千古に比ひなき事であります。

殊に明治二十七八年（日清戰役）同三十七八年（日露戰役）に於きまして、東洋の安寧と世界の平和のために義戰を宣し給ひましたが、御稜威天地に振ひて戰へば必ず勝ち攻むれば必ず取り、遂に帝國大捷の下に平和は克復せられ、列國の間に於ける帝國の地位をして九鼎大呂よりも重からしめ玉へる事は、幾千歳の後までも御榮えある事であります。

聖上陛下が民の父母として、赤子の如くに臣民を憐れませ給ふ御至情に至りては御列聖中全く數少いのであります。例へば日露戰役中の御製に係る、

子等はみないくさの庭にいで立ちて翁や一人山田守るらん

の御歌の如き、又

あつしともいはれざりけりにえかへる水田にたてるしづを思へば

の如き、私共は一誦三歎、只々聖恩の優渥なるに感泣の外はございません。

陛下御遺事に就ては記し奉るべき事實に數多くございますが、今月號の雜誌は崩御前に編輯を終りて居りましたので此數頁だけを改版し、後は已むを得ず次號にゆづります。

講演

感化の力

救世軍書記長官大佐補　山室軍平

電話で演説の題を御聞合せになりました時に、私自分では出ませぬでしたけれども、チョッと私の傍に居る人に御返事を頼みましたところが、其人が取違へましたか、矯風會の方で御取違へ下さいましたか、餘程音は似て居つたのでありますけれども、まるで違つた事に傳つて居つたやうであります。「看破の力」と云ふ風に出て居つたのでありますが、困つたものだと思つて居りました、此處には直して戴いて安心致しました。

偖極く有りふれた御話をしたい積りでありますが斯う云ふことをズッと以前に聽いた事があります。一人の若い人が居りまして、鐵砲を擔いで獵に出る事が好きであつた。鳥だの獸だのを手に入れまする事を何よりの樂しみとして居つたさうである。處が其母親が佛敎家であつて、殺生と云ふものは惡い事だと思つて居るものでありますから、度々伜に意見を致して獵を止めろと云つたさうである。どうしても言ふ事を聞きませぬので、母親が或日旦那寺の和尚さんを訪ねて行きまして、どうか伜に意見をして、獵を止めさして下さるやうにと頼んだ。ところが、和尚さんは、私共の言ふことを聞くやうにも思へないけれども物はためしだからマア寄越して見ろと云ふことであつた。お母さんは家に歸つて伜に向つて、和尚さんがお前に會ひたいと申して居られると云ふと、伜は答へまして、お母さんは和尚さんの處に行つて、伜に獵を止めるやうに意見をして貰ひたいと云ふことを頼んだんだらう、それは見え透いて居る。若しそんな話であるならば和尚さんが言はうが、誰が言はうが、聞く事ではないが、來いと云ふならば、兎に角行つて見やうと云ふので、出掛けて行つて、和尚さんの顏を見ますると、其若い人が言ふのに、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

和尚さん、何か御用が

ございまするさうで參りましたが、若し、私に獵を止めろと云ふ御話ならば、それだけは駄目ですから、前以て御斷りして置きます。其外の話なら何でも承りますが、どう云ふ御用でございませうかと云つた。先んずれば人を制すと云ふことでありまして、流石の和尚さんも閉口しましたが、なか〳〵喰へない坊さんと見えまして、當意即妙で何か外の事を思ひ付いたと見えます。それ程獵が好きだと云ふ話ならば、强ち止めろと云ふのではないが、外の事で一つ賴みたい事がある、聞いて吳れるだらうかと云ふと、「外の事は何でも聞きます、何でございますか」「それではむつかしい事を賴む譯ではない、是から鐵砲を擔いで鳥を射ちに行く度に、お前の射出す鐵砲玉が、鳥だの獸などの、どの邊に中つて、どんな風に挑て、どんな風に轉げて、どんな風になつて、何處を押へて、どう捻ぢて、何處を叩いて手に入れたかと云ふ、其有樣を一遍々々よく注意して、時たまにお前を呼ぶから、一つ話をして見て吳れ」と云ふことであつた。面倒臭い事だとは思つたが、獵を止めろと云ふ話でないから仕方がない、始終お袋が世話になつて居る和尚さんの話だから一遍位は聞いて見やうと云ふので、それではやつて見ませうと云つて歸つたさうである。それから一週間も經たないうちに、其伜が今度は和尚さんから呼ばれた譯ではないが、自分の方から求めて、和尚さんを訪ねて行つて、和尚さん、お前さんは喰へない人だねと云ふ、何を言ふのかと尋ねると、お前さんは獵が出來ないやうにしてしまつたではありませぬかと云ふ、どう云ふ譯かと聞くと、「それは尋ねぬでもアナタには分つて居るのでせう」それこそ看破の力で看破つて居るのでせう。(笑聲)マア言ふて見ろと云ふことでありますから、伜が申しますのに、アナタはあんな事を仰しやつたが、何だか意味が分らないで、面倒臭いがやつて見やうと思つて居るうちに、氣の着きました事は、

成る程、獵と云ふものは恐いものだ

と云ふことが分つた、今までは自分一人が鐵砲を射出してズドンと云つた拍子に、鳥や獸が手に這入りますれば、こんな愉快な、面白い事は又とないと思つて自分の勝手の好い事ばかり考へて居りましたが、生ち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つかアナタにあんな事を言はれましたので、後に、自分の射出す鐵砲玉が對手に——見込まれた鳥や獸にどう云ふ苦勞を與て、どう云ふ難儀をさせて、果ては命を取られる處まで推迫つて行くものであるかと云つたやうな事に注意をするやうになりまするど、自分一人が面白い目をする爲めに、鳥を一遍〳〵九死一生——ではない命まで取つてしまふのである。そこまで追詰めなくても宜いと云ふやうな事に氣が着くやうになりました。氣が着いて見ると、なる程お袋が始終口を酸つぱくして言ふやうに、獵と云ふものはよくないと云ふことが分りました。それで到頭獵が出來なくなつてしまひましたと云ふ物語をしたと云ふとであります。獵の善惡を今申すのではありませぬが、私が思ふに、此物語は極めて意味の深いものだと考へる。私共は何事についても、自分一人勝手氣儘な事を考へてやつて居る間は、どんな事でも出來るか知らないけれども、自分が何の氣なしにやつて居る事柄が、出會しまする人、交際ひまする人達の上にどう云ふ感化を及ぼし、どう云ふ影響を與へるものかと云つたやうな點に注目するやうになりまするど、今までは勝手放題にやつて居つた一擧一動までが、さう輕卒には出來ないものであると云ふことに氣がついて、大に責任を感ずるやうになる有樣は、丁度今の何氣なしに射出して居つた鐵砲玉が、對手に取られた鳥や獸の身の上に、どう云ふ影響を及ぼすかと云ふことに氣がついたら、容易に射出すことが出來なくなつたと云ふのと、同じやうな考へになつて來るであらうと考へるのであります。

書生の間に習ひました詩

の中に、何でも斯う云ふのがあつたと記憶して居ります。或時一つの矢を射たのである。其矢が何處かに飛んで行つてしまつて、行方知れずになつてしまつたと思つて居つたが、久しくして後に、それが或る木の梢を射拔いて居ることを發見した。或る時一つの詩を吟じた、其聲は何處かへ飛んで行つてしまつて、どうなつたか分らぬと思つて居つたが、久しく經つて後に其詩が誰かの耳に殘つて居つた事を發見したと云ふ、丁度其通りの言葉ではなかつたと思ひますが、意味はさう云ふ意味であつたと思ふて居ります。さう云ふ風に、こちらでは何の氣なしに、フトした出來心でやつて居る位の事が、人は人の中に造られて居るものでございますから、前の出會しまする人、交際ひまする人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

違の上に案外の影響を及ぼして居る場合が甚だ多い事を心着かなければなりませぬ。人は會ふところの一部分だと云つた人があります。如何にも尤もな事で、私共と云ふものは、毎日見るもの、聞くものが寄つて集つて造り出して居るものと見れば見ても差支ないやうである。總て心は必ず物に觸れて起ると、昔の人が言つたのも、やはり同じやうな意味であらうと思ひます例へば生れ落ちて育ちます土地の風と云ふものは、私共の人物を作る上に非常な影響をするので、英雄の起る處地形好しと云ふことがある。何れ人物は高い山、大きな川が流れて居るあたりで、太い膽を養ふて出て來るものかも知れないのである。エライ人ばかりではない、惡い事をする人でも、暖かい國では生命犯と云つたやうな犯罪人が多いとすれば、寒い國では財産犯が多いとか云つたやうな譯で、土地が其人に影響する事は非常に大きいものである。生れ落ちまして周圍の氣風とか、其國柄とか云つたやうなものが、私共の精神なり、私共の人物なりを造ります上に非常な關係のあるものであります。或人が、

獅子と云ふ獸はどんなものだ

と云ふ問を出すと、獨逸の國の人は御承知の通りに學問好きの國民でありますから、待つて呉れと云ふので、圖書館に駈付けて行つて、獅子に關係した書物を澤山讀んで來て、獅子とは是れ〳〵のものだと報告する。佛蘭西の國の人は氣輕な人物だから、待つて呉れと云ふので、動物園に出掛けて行つて、しみ〴〵獅子を見て話をする。英國の人間は押しの強い國民でありますから、鐵砲を擔いで獅子の居る處まで出掛けて行つて、一頭擊殺して、擔いで來て、獅子は此通りのものだと報告するさうである。英國に生れる人はさう云ふ押の強い人ばかりで、佛蘭西に生れる人はさう云ふ氣輕な人間で、獨逸の人は研究好きのものばかりと初から極つて居るものではないけれども、何時の間にかさう云ふ風に出來て居る中に、生れ落ちて來ると、自分もさう云ふ風に似て參るものと見えるのであります。同じ日本の國でも、御承知の通り細長い國でありますから、處に依つては餘程氣風が違ふのである。今も拜見して居りますと、秋田の代表者もあれば、長崎の代表者もお出でになるやうである。或る人にはお障りがございませうが、或人が申しました言葉に、九州の人はチヨイと見たところ怒つて居るやうである、中

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國の人は笑つて居るやうである、東北の人は心配して居るやうであると、最もチョッと穿つた言ひ方であらうと思ふのであります。學校には學校の氣風がございますれば、會社には會社の風が出來て來る。勤める職業と雖も私共の人物、精神の影響するところが甚だ多いものであります。古い話でありますが、お面を彫りまする職人が或時人に出會ひました、處が、お前さんは何か心配事があるのか、エライニガ〳〵しい顔をして居るではないかと言はれた、別に何も心配はないと云つて家に歸つた。今度目に出會ひました時には、お前さんは此頃何が嬉しいのか、

イヤニニコ〳〵して居る

ではないかと云はれた。どうも譯が分らない、よく考へて見たところが、初にニガ〳〵しい顔をして居ると言はれた時は、人から註文があつて鬼の面を彫つて居つた時で、ニコ〳〵して居ると言はれた時はお多福面を彫つて居る時であつたさうであります。する仕事がやはり人の心に影響をして參るものである。讀みまする書物が人に感化を及ぼすなどと云ふことは今更例を擧げて申すまでもない事であつて、見る圖書などが人の心に及ぼす關係なども小さいものではありませぬ。何でも何時か聞いた話でありますが、或る若い軍人が結婚した、奥様が姙娠になつた樣子でありますから、二人の間に赤ン坊の生れるのを樂みに待つて居る。男の子が生れて欲しい、生れた男の子は軍人にしたいと思つて居つた。併ながら男の子が生れるのは宜いけれども、考へて見ると私もお前も目が細い、目の細い軍人と云ふ奴はどうも餘り引立たないものだから、どうか生れた男の子の目がパッチリして居つて、それを軍人にしたいものだと云ふことを話しあつて居りました。が、どうしたならば、目がパッチリした好い子供を拵へる事が出來るか分らぬ。いろ〳〵考へた後に知己の畫家を賴んで、特別に註文して目玉の大きい西郷南洲を畫いて貰つた。さうでなくても目玉が大きいのに、別誂への目玉の大きい西郷南洲の畫が出來たので其畫を姙婦の部屋に懸けて置いて、朝な夕なに眺めて居ると、月滿ちて赤ン坊が生れた、註文通りに鈴を張たやうな目の赤ン坊が生れたと云ふことであります。

さう云ふ風に見るものが我々に感化を及ぼすのでありますから、土地の事でも、或は山でも川でも、氣候でも、或は讀みまする書物、或は見まする圖

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

齎が悉く私共に影響を及ぼす位でありますから、況して生きた人間同士の感化と云ふものは、更に一層著しきものがある事を知らなければならぬ。猿の人眞似と云ふことを言ひますけれども、

猿よりも餘計に人眞似

をする者は、言ふまでもなく人間であります。學ぶなどと云ふことは實は眞似て居るのである。口眞似をして居る間に、いろ／＼な事を覺えるのである。見やう、見眞似で私共は一人前になつて居る。或る時私が英吉利から來ました新聞を見て居りますと、近所の子供が覗いて見て、其齎は何ですと云ふから、英吉利の乞食の齎だと云つた。すると子供は暫らく考へて居つたが、英吉利では乞食でも英語を知つて居りますかと云ふ。成る程英吉利では乞食でも英語を知つて居るに違ひない、日本で英語の達者な乞食が其邊を歩いて居つたならば、少し曰くがあるに相違ありませぬが、英吉利の乞食は皆んな英語を知つて居る。併し月謝を出して、束脩を拂つて覺えたのではない。眞似をして居る間に、何時の間にか覺えたのである。さう云ふ風に人は周圍にある人々から見やう、見眞似でいろ／＼な事を學ぶのであります。流行と云ふことがある。別に今年の夏は斯う云ふ帽子を被るべし、婦人は斯う云ふ薄い夏羽織を着用すべしと云ふ申渡しはないが、誰かが着ると、其眞似をする。眞似をすると云ふことは、人間が何かにつけ、外に人々から感化を受け、或は感化を及ぼして居る事が多いと云ふことを證據して居るものと言はなければならぬのであります。

久しい以前に上州の山の中から出て來た一人の人が私に斯う云ふ話をした。私の山の中の村に初めて洋服を着たのは――其時分には村長とは申しませぬ、戸長さんであつた。處が戸長さんは倔僂であつた。初めて洋服を着て背中を圓くして毎日役所に通ふて居る樣子を皆んなが見ました。洋服と云ふものは重寶なものだブラ／＼と袂見たやうなものがないから結構だと感心して居る。其うちに若い人などが眞似をしまして、二人三人、洋服を拵へて着る人が出來ましたが、西洋人が洋服を着て反り返つて歩いて居るのを見た人はない洋服を着ると皆んなが急に

背中を圓くして歩く

と云ふことを話して居つた、それが洋服の着方だと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思つたに相違ない。さうするとよくうつると思つて、眞似をして居つた者と見ます。或る人が神田の方から麹町の方に用達しに行つたさうである。九段坂の眞ん中過まで行つて、フト思出して、待てよと云つた、何を考へたか、眞ん中に居ると邪魔になるから端の方に行つて、牛ケ淵の方をヂッと見詰めながら、考へ込んで居つた。稍々暫らく考へて居るうちに、何だか人のけはひがするから、フト氣がついて見ると何時の間にか五六人の人間が來て居る。變な事になつたと思つて自分は麹町へ行つて用達しをして、一時間ばかり經つて歸りがけに、牛ケ淵のほとりを見ると、二三十人の人がズッと立つて見て居るさうである。變な事になつたと思つて、側によつて、何んでございませうかと尋ねた處が、「サア、何んでせうか」何だか譯が分らないのである。分らないけれども、唯眞似をするのである。さう云つたやうな風に、人間と云ふものは眞似をする動物である、人間は眞似をするやうに出來て居る動物でありますから……(笑聲)私は串談を話して居るのではない、本氣な話である。一人の人が眞面目な生涯を送ると、一人の人が不眞面目な生涯を送るとそれが非常な影響を此世の中に及ぼすやうな事になるのである

私が一人眞面目な事をやつた處がたかの知れたものである。自分が勝手に道樂をして不眞面目をするのであるから誰にも世話にはならぬと云ふかも知れませぬが併し、さうは言はせない。人はお互に眞似をするやうに世の中は出來て居るのでありますから、一人の不眞面目な人間があると云ふことは、何百人、何千人に不眞面目な感化を及ぼすと云ふ事を意味するのである。一人の眞面目な人が現はれたと云ふことは、一人に止まらない、何百人、何千人に眞面目の影響を及ぼすものであることを意味して居るのであります。(以下次號)

廓清會に入會を勸む

男女間の道徳を高め、社會の矯風を圖らんと欲せば、必ず男女兩方面に働きを進めねばなりません。即ち婦人矯風會は廓清會により廓清會は婦人矯風會と力を併することが必要であります。故に本會員諸姉は矢張り廓清會に入會し又人に入會を勸められたいものであります。會費は一ケ月僅かに五錢で、有益にして多趣味なる雜誌を配付致します。入會の申込は矯風會本部で取次いで戴きます。(廓清會本部)

矢野氏の「藝者論」を讀む

早稻田大學教授　安部磯雄

△到底舊思想たるを免れず

今晩の演題は、矯風會の演說としては餘りにみだらがましいやうな演題であります。併し此書物は近頃大分新聞などにも批評されて、既に三版にもなつて居ると云ふのでありますから、大分世の中に讀者が多いと見えます。私は此書物の總ての點に就て、此處にお話することは出來ない。又實際に白狀致すと之を悉く讀むだけの時間もなし、又忍耐力もなかつたのであります。只どう云ふ種類の書物であるかと云ふことを、大體に申上げて見たい。若し此世の中に、進步的の思想を持つて居る人と、保守的の思想を持つて居るところの人、謂ゆる新思想と舊思想との二つのものがありとすれば、此書物は、やはり確かに舊思想に屬して居るところの書物であると云ふことは、大體に於て私は斷言するを憚らない。併し中に書いてあるところの事柄は、隨分私共が聞いて、賛成と思ふ點も少なくはないのであります。確かに此人は藝者と云ふものを段々改良して行きたい。今のやうな淫賣婦と之を爲すことは不都合である。詰り改良意見を持つて居るのでありますから、其點から申すならば舊思想の人々の中では稍進步せるところの人に屬して居ると云ふても宜しいのであります。けれどもやはり飽くまでも藝者と云ふものは此世の中に必要であると云ふ必要論者である。

△如何にしても聞捨にならぬ點

それからもう一つ私共がどうしても聞捨てにならぬと思ふ事があります。其點だけを私は此處にお話申して見たいと思ふ。

それは、藝者を排斥するいろ〳〵の議論があるが、其議論をズッと列べて居る中に、細君から藝者と云ふものは不都合であると云ふ藝者の排斥論が出て居る。其議論の中に、いろ〳〵辯護して、細君の議論は無理である。やはり藝者はあつても差支ない、又あるべき

ものであると云ふ其議論の中に、私共の甚だ閑捨てにならぬ事があるのです。是は今日風教の上から申しても、私共默つて居ることが出來ぬと思ふ事柄である。其要點は二つある。男子が放蕩をすると云ふことは已むを得ないのであつて、是は婦人の方からも大目に見て置かなければならぬと云ふ。其理由として述べて居る事が二つある。

其第一は、男子と云ふものは女子に對して見ると、情慾が甚だ強いものであつて、女子のやうに情慾を抑へて行く事が出來ないと云ふ。是は極めて簡單な議論のやうでありますが、私思ふには、さう簡單な問題ではないと思ふ。第二の問題は、女子と云ふものは男子に養はれて居るものである。金を儲けて居る者は男子であるから女子は男子に從つて行かなければならぬ。男子に養はれて居る間は、さうどうも男子の我儘に對して餘り不服を唱ふべきものでない。男は一生懸命に働いて居るのである。多少其間に不都合があつても、女子の方で辛抱すべきが當り前であると云ふ議論である。要點は詰り二つである。極めて簡單でありますけれども、是は私の思ふのに世の中の進歩思想を持つて居る人から申しますならば、實に取るにも足りない詰らないところの議論ではあるけれども、併しながら尚ほ世の中に多數を占めて居るところの舊思想の人々から云ふならば、隨分斯う云ふ考は口に話さぬまでも心の中に思つて居る男子が隨分世の中にありはせぬかと思ひます。それで私は今晩のやうな機會を捉へて、少し茲に之を論じて置く必要があるであらうと思ひます。

△男性は女性よりも制慾力乏しとは何の謂ぞ

世の中は實に詰らない議論であつても自分に勝手なところの議論であるならば人々は隨分耳を傾け易い。男の方から言ふならば誠に都合の好い話である、併しながら是は私共が唯成程と云ふて感心すると云ふやうな事にはいかないので、やはり十分私共は道理を一つ考へて、さうして果して矢野氏の言つて居るやうな理窟と云ふものは立つものであるか、或は是は單に男子の身勝手な議論であつて、殆んど是は男女に拘はらず公平なる立場から言へば取るに足らぬ議論であるが、私は其點を皆さんの前で少し述べて見たいと思ふのであります。矢野氏は男子と云ふものは女子よりも情慾を抑へる力が無いと云ふことに就ていろ／＼議論をし

て居りまするが、其中には極く下等なる動物、さう云ふもの丶例を澤山引張り出して、さうして自分の議論の助けにして居られる、私は一々其名は覺えないけれども、蟲ケラのやうなア丶云ふ極く下等な動物などでも、どうしても雄の方が非常に情慾が強くして、到底雌とは違ふと云ふやうな事を論じて居る。或は夏私共が燈火を點して居ると小さい蟲が飛んで來る。謂ゆる「飛んで火に入る夏の蟲」と云ふことを申しますが、あの蟲なども火を慕うて來ると云ふことは、是はやはり雌を慕うて來るのであつて、彼等の情慾の爲めに、終に自分が死んでしまふのであると云ふやうな事までも矢野氏は書いて居られるのである。で、私は矢野氏の説を唯大體に申して居るのでありますが、果してさう云ふ理窟が立つものであるかどうかと云ふ事を私は考へたいと思ふ。若し下等動物の話であるならば、もう少し觀察點を廣くしなければならぬと思ふ。私共は專門の動物學者ではありませぬから蟲ケラの事を精しくは知りませぬ。知りませぬけれども、矢野氏の引張つて居るやうな事實も無論あらうと思ひますけれども、それに反對した事實も動物界には多いと云ふことを私共は考へなければならぬ。

△人間も恥ぢねばならぬ程の倫理的なる動物あり

いろ〱な動物を探して見ると、本當に人間が動物の前に耻ぢなければならぬやうな動物が澤山居ると云ふことを私は動物學者から聞いて居る。手近い話を申しますと、稍高等に進んだ虎とか、鹿とか云ふ獸の類に至つたならばどうでありませう。私は多く一夫一婦の制を守つて居るものが動物の中には多くはないかと思ふ。鯨の如きは確かにそれである。鯨などは固く一夫一婦の制を守つて居るところの動物である。さうして實に夫婦の情愛、或は子供の情愛と云ふものは非常に強いものであつて、恐らくはあの位に發達して居るものはあるまい。友人で野口復堂と云ふ人がありますが此人は紀州の海などに行つて現に鯨を捕るのを見たところの人であります。或る時私が聞いて居りました處が、鯨と云ふものは實に夫婦の愛に富み、道德――人間の所謂道德と云ふものを寔に高尙に守つて居る。迚も我々はア丶云ふものを見た時には人道などと云ふことを言つて誇つて居る事は出來ない。人道どころではない。鯨道と云ふものを大に稱へなければならぬと云

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふことを申された位であります。さう云ふ例のある事は矢野氏は見逃されて居るのではないか。却て動物と云ふものは段々進化して來るに隨つて、餘程一夫一婦の制は固く行はれて居るのであつて、決して男性の方が情慾を恣にして、情慾を抑へることが出來ないと云ふ例は、私は人間以外には下等動物の中にも餘り見る事の出來ない例ではないかと思ひます。此事實は確かに私共は考へなければならぬものだと思ひます。私共の養つて居るところの家鴨であるとか、或は鷄であるとか云ふやうなものになつて來ますと、決して一夫一婦の制を守ては居ない。併し或る人は之を皮肉に言つてナニ、あれは本性一夫一婦を守るべき鳥であるけれども、人間と云ふやうな墮落した者に養はれるやうになつてから、人間を眞似て、終にア、云ふ風になつたのであると云ふことを申す人があります。是は無論學術的に言ふことは出來ませぬ。併しながら私の僅かの動物學に就ての智識、僅かなる進化論の智識に就て申しますならば、人間が今日のやうに墮落したと云ふことも、やはり鷄とか家鴨とか云ふやうな人間の飼つて居る動物が、ア、云ふ性質になつたと云ふ事も、理窟は同じ事であらうと思ひます。

△男性の情慾は人爲的に發達せるものなり

詰り人間と云ふものは、昔に於きましては、自分の種族と云ふものを非常に殖して行かなければならぬと云ふ必要に迫られた爲めに、どうしても人間の生存する上に於て、子孫の繁昌と云ふことが、大なる要件であつた。それで私の思ふには、人間は昔はやはり外の動物と同様に、其性慾の如きはチャンと時を極めて起つて來るものであつて、一年を通じて起つて來ると云ふことはなかつたのであるけれども、段々人口繁殖の必要から人爲的性質を養ひ立てるやうになつたのである。それで我々の飼ふて居る鳥類はやはり、それから卵を得たいと云ふ目的で養つて居るのであるから、是れも何百年かの間に、段々人間が、ア、云ふものに化してしまつたのであつて、普通世の中に自由に飛んで居るやうな鳥と違つた性質を玆に作り出したのである。是は私の考でありますが、斯う云ふ事を考へて見るならば、決して人間の本性と云ふものはさう云ふものではない。謂ゆる男子と云ふものも、さう云ふ肉情に始終制せられて居り、肉情を恣にしなければなら

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬ、肉情を抑へる事が出來ないと云ふものでは決してなかつたと云ふことを信ずるのであります。さうすると、今の動物の方の議論から申しましても、私は餘り矢野氏の議論と云ふものには感服を致さぬのであります。

△人種改良學と男女の制慾

もう一歩進んで考へなければならぬのは何であるかと云ふと、唯矢野氏は――矢野氏ばかりではない、普通の論者と云ふものは、唯世の中の事實を見て、事實其儘に對しての自分の解釋を施すばかりである。併ながら、今日總ての學問は、決して現在是がどうであると云ふことだけでは滿足は出來ぬのである。私共は歴史を探して、過去がどうであつたかと云ふことを今日は研究する歴史の學問が進んで來ると同時に、私共は將來はどうなるかと云ふところの問題までも移つて行かなければならぬ。今は成程事實から言ひますならば男子は實に我儘であつて、男子は性慾と云ふものを甚だ濫用して居ると云ふことは疑もない事實である。併しながら、唯今申しましたやうに、過去の歴史を見ると、元は人間もさう云ふものではなかつたと思ふ。將來はどうか、私共は此儘放つて置くならば、文明の墮落であつて、且つ文明と云ふ點から申しますならば、是から先きに人間の一つ考へなければならぬ事は、男女に拘らず情慾を節すると云ふことである。或る學者が言つたやうに文明と云ふものは、人間が自分の性慾を制限すると云ふことにあると云つたやうに、私は人間か性慾を制すことが出來ない以上は、文明の發達を爲すことは出來ないと思ひます。今日の人々が非常にやかましく言つて居る人種改良學即ちユーゼニックスの上に於てどうしたならば人種と云ふものを段々良くして行くことが出來るかといふ問題に到着したならば是は一口に言ふならば我々銘々が、自分よりも以上の良い子供を產めば社會は發達する、人種と云ふものは發達向上して行くと云ふことは疑はない事であります。どうして、私共は良い子供を產むか、自分より以上の良い子供をどうししならば產むことが出來るかと云ふことを考へたならば、私共は唯其點に於ては、自分の情慾を節すると云ふところの一つの事より良い方法はないと思ひます。それは自分の智識を磨くと云ふことも必要である。自分の子供を鍛ひて行くと云ふことも必要である。自分の品性を十分に養つて行くと云

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふことも必要である。併ながら其十分發達せしめたものを、其儘之を子供に傳へて行つて、より以上にそれを發達せしめて、行かうと云ふにはどうするか、外に方法はない。我々自分のいろ〳〵な情慾と云ふものを――性慾ばかりではない。情慾と云ふものを制限して行かなければならぬ。酒が飲みたいと云ふ、それは今日の人種學から申しますれば、酒と云ふものは人類の大敵である、どうしても酒は止めなければならぬ。それから私共の不品行、今日世の中の人々の血液を汚して居るものは何んであるかと云ふと、黴毒である。即ち斯う云ふ酒毒、黴毒と云ふものが、我々の社會にある間は、私共はどうしても癲狂院のやうなアヽ云ふ情けないものを置いて、我々の同胞をあの中に養はなければならぬ。よし、癲狂院に這入りませぬまでが、世の中には小學校に來て、普通の子供と一緒に勉强することの出來ない子供がある。そこで獨逸あたりでは盛んに低能兒教育を始めて居る。能力の足りない者は學校に集めて教育しなければならぬ。低能兒と云ふことは、何にも理由なく世間では言つて居りますか、是が氣狂ひと關係なしと云ふことを言はれますか、氣狂ひと云ふものは弊害の最も恐るべきものである、それ等に對して低いのが白痴、それから下つたのが低能兒で其低能兒の中には、學校などで見て落第するやうな學生も這入つて居る。何がそれを來したかと云ふて、決して是は自然に來たものではない。親が自分の品性、自然の性質と云ふものを子に傳へなければならぬ。其中途に於て、酒毒、黴毒の爲めに始終邪魔をされて居ると云ふことを考へたならば、私共は本統に前に申しました學者のやうに文明の進歩と云ふものは我々の情慾を節すると云ふことにあると思ひます。決して私共は不品行をしない、酒を飲まないと云つて、それで安心することは出來ない。それだけではいけない。寧ろ善良なる子供を得やうとするならば、男子も女子も自分の性慾と云ふものを制限して、十分にそれを我々が抑へて、適度にそれを用ゐて行くと云ふことにしなければ、私共は決して文明の發達進歩と云ふものは圖ることは出來ないのであります。

△ユーゼニツクスの上より見たる上流社會

斯樣に考へましたならば、私共は、男子と云ふものは情慾が強いから、少々は放蕩しても差支ない、是は

已むを得ないと云ふやうな矢野氏の議論を、眞面目に受けて居つて宜しいものでありませうか。斯う云ふ議論が日本の上流社會に行はれて居る間は到底文明の進歩と云ふものは期せられないと思ひます。御覧なさい決して上流社會はユーゼニックスの上から考へたならば良い人種を遺して居る階級ではありませぬ。今日第一流の政治家とか、第一流の軍人と云つて居りますけれども、其人がどれ程エラクても、其自分の偉いものを自分の子供に遺すことが出來なければ、彼等は社會の爲めに決して、良い働きをして居るものではありませぬ。(拍手)今日續々不良少年が檢擧されると云ふことは、不良少年其者が悉く下等社會から出て居るかと云ふと、決してさうではない。上流社會から、斯う云ふ不良少年が出て居ると云ふことは實に驚くべき事であります。是は子供が實に氣の毒である、可愛さうである。偉いお父さんが矢野氏のやうな考を持て——男と云ふものは情慾を節することの出來ないものであると云ふやうな、さう云ふ弱々しい考に支配せられて居る其罰と云ふものは、覿面に自分の子供に報ひて來て居ると云ふことを私は信ずるのであります。

△矢野氏の説は論理上の矛盾なり

併し私は此處に矢野氏の議論が如何にも筋道が立つて居ないことを御話申さねばならぬのは、流石に學生に對しては、情慾を愼まなければならぬと云ふことを外の場所に於て言ふて居られる事であります。是は非常におかしいと思ひます。それは、自分が或る友人から相談を受けた。此頃は學生の風紀が紊れて、段々墮落して來たから、自分の息子を東京に送るに就ては、どうか息子が墮落しないやうに、早く細君を持たせるか、或は特別に妾でも置いてやるやうにしやうかと思ふて居るが、どう云ふものであらうと云ふ相談を受けた。是は矢野氏の論理から言ふならば、是は申すまでもない。お置きなさいと云ふて勸めなければならぬ。何となれば情慾の強いと云ふことは、青春の血が燃ゆる十七八歳の學生時代が、最も激しい時期であらうと思ふ。此時期にある學生に對して、何故矢野氏は其人の情慾を滿足させるやうな途を講じて呉れないのでありませうか。それは流石の論語崇拜家も已むを得ないのであつて、青年はどうも仕方がない。學生中にそんな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事を考へて居つてはいけない。學生は宜しくさう云ふ事は打棄てて勉強しなければならぬと言つて居られる。是は甚だ善い事で、私も賛成するのでありますけれども、矢野氏の議論としては矛盾極つた話であると思ひます。若し情慾が強いから男は少々放蕩しても差支ないと云ふ議論が立つならば、何故青年學生と云ふものは、さう云ふ不品行をしてはならぬのでありますか。若し青年學生は學問の時代である。研究の時代であるから、之を節しなければならぬと云ふ事であるならば、此論理を以て言へば大人でも私共は何時までも研究中である。何時までも修養中である。殊に我々は子孫と云ふものを自分よりも良くしなければならぬと云ふところの社會全體に對する義務から言ふならば、私共は飽くまでも自分の身を節して行かなければならぬ必要があるのであるから、青年が情慾を愼んで行かなければならぬと同時に、大人の男子と云ふものも情慾を愼んで行かなければならぬ必要があるであらうと思ふのである。此點に於て、矢野氏の議論は論理に適つて居ないものであると云ふことだけを、私は此處に申して置くのであります。（未完）

＊　＊　＊　＊　＊　＊

時事雜感

益富生

跡見花蹊女史の叙勲

曩きに棚橋、三輪田兩女史が、叙勲せられた頃、我々は我が矢島會長と、跡見花蹊女史とがとり殘されたことを不思議に思つて居た、尤も矢島會長は、基督信者の事であるから文部省との關係上無理もないことでもあらうが、跡見女史のことは、さつぱり理由が分らなんだが、果して當局者の調べ落ちであつたと見えて、去る頃同じ叙勲の光榮を得られた。

女史の女子敎育界に於ける功勞に就ては、何人も知る所である。其の手にかけられし生徒の數は四千人にも及び、分けて今の閑院宮妃殿下、北白川宮満子女王殿下、を初め貴顯の子女にして、女史の薫陶を受けし者頗る多く島田信子夫人の如きもその一人である。尚ほ老女史は、叙勲の恩命を受けて、獨り之を喜ぶを

快よしとせず、廣く區民と共に聖德を偲び、二には恩師の榮譽を壽ぐ七百の校友等の志を空くせざらんとする心より、三には女史が亡父君の追善を兼ねて、去る七月十五、六の兩日、米の高いに、苦んで居る區内の細民に、九十俵の米を施こした。何から何まで美しい話である。因みに記す、島田夫人も襷掛けで其の施米の手傳ひをせられたと云ふ。

耶蘇の福音を信ずる能はざる人の悲慘

醫學上世界の人類に多大の巧德を遺した故ドクトルコッホ氏夫人は、此頃我國に來遊して、鎌倉海濱院ホテルに在りとのことであるが、夫人は性來哲學上の事に多大の趣味を有ち、故國に在りし日には已にあらゆる哲學上の名著を讀破して、自から見地を有して居たが、一昨年夫君コッホ氏の死に遇つてから、忽ち生死の一大事に逢着して烈しき煩悶を懷き、此頃鎌倉の宗演禪師を其隱棲地なる松ケ岡東慶寺に訪ひ、平生思ひ惱みつゝある疑問を提出して曰く『禪は見性成佛の宗旨なりと聞くが、妾が亡夫の靈は今何處にあるべき。こは何まで何人にも語らざりし處なれど、亡夫臨終の折妾を枕邊に呼びて、己れは今一度息を閉づれば此個體は直に滅すべく、予が靈魂も亦た同時に滅亡すべしと云ひたるが、妾は夫の沒後尙は死生の疑惑を解決すること能はず。師の敎を乞はん。』とて、佛敎の安心立命法を聞いたといふ。——靈魂不滅の耶蘇敎の福音に救はるゝ能はざる人々の悲劇の一幕、端なくも我々の眼前に開展して來た。『我等は復活なり、生命なり、我を信ずるものは死すとも生くべし』と。此の福音をすなほに信ずる能はざる人こそ禍なるかな。

効果多き瑞典の節酒制度

瑞典に開かれたるオリンピック競技會場よりの通信の一節 曰く『ハッセンパッケンと云ふは當地にても有數のレストランで其設備は歐洲風にて別に變りし所もないが只幾百となく並べられたるテーブルの上に大瓶の酒なく、パンチと云ふ瑞典名物の酒より麥酒に至るまで大概小瓶を列ねたるは異樣の感がした。是れ瑞典にてはツタンプルグ、システムと稱する節酒制度ありて、其の販賣及び個人の飮酒分量を制限し居る爲だといふこの國民も亦正直にして一人して飮むに三人分の酒を買ふやうのことはない。許都の醉倒れに目馴れ居る予等が未だ一人の醉漢にも出會はないのは偶然でない。成程これは良き組織なりと納得された。さて斯かる良法のあるには何か、いはれのあることならむと問ひた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゝして見るに、曰く往昔此國では酒類はすべて政府の專賣なりしため、勢ひ政府は其收入の多きを欲して、段々飮酒を奬勵する傾となり、そこへ寒國人通有の酒を好む性質を加へて、酒類の消費額頓に増大し、弊害を生じたる爲、後には其反動として禁酒奬勵の運動盛んに起り、遂に政府も專賣を廢し、各市町村に於て夫々アルコール最多き酒類の醸造と販賣とを監督する事となり、飮酒の分量を定め酒造家及び販賣店に制限を加へて彼等には一定の利益を與ふる外、殘部の利益は悉く市町村の收入として教育費救恤費其他に使用する仕組となつたのだといふ。一昨年當國に勞働者の大罷工同盟ありし時、時の首相リンドマン氏は鎭靜の一手段として三日間酒の販賣を嚴禁して暴動を未發に防いだと云ふ話もある。これまた節酒制度の完備を語るものか云々」。世界に於て既に斯の如き先例もあるのに何故に日本ばかり、それが出來ないといふか。況んや日本に於ては僅かに未成年者から始めやうといふのに。

婦人と勤勞の精神

山脇房子女史は今日の貴婦人が、只なすこともなくして無意味に生活し、米價の暴騰も自分には沒交渉の事として能の話か、芝居の話か、其他は人の噂位で空しく日を暮らし、而かも働く事を以て賤しい事、品位を損することゝ思つて居るのは、東洋の惡習慣であると曰つて居る。而して西洋では、皇后陛下の貴とい御身分でも、時にお書き物をなさつたり、編物や刺繍などの御手細工物を御賣りになつて、慈善の資にお充てになるといふやうな事は敢て珍らしい事でないと云ふ例を引いて居る。如何にも尤もな注意である。婦風會々員などの中にも、大いに勤勞の精神を旺んならしむることが、軈て現代に於ける諸姉の使命ではないかと思ふ。既に横須賀では某中將夫人などが、下級者に同情を寄する爲め、バテンの内職を始めたと聞いた。

婦人自ら向上するを要す

ある西洋婦人の話に「日本の婦人は歐米の婦人に比べると、全然權利を蹂躙されて、大變に氣の毒な境遇に在ると云ふやうなことを申す人があるが、それは全く實際を知らぬ人の皮相の觀ではないか。何故といふに、日本の婦人は表面はさも力がなさゝうに見えるけれど、實際家庭に在つては、充分實力を振つて、主婦の意見は差支なく行はれて居るのである。夫故に私は、日本の婦人よりは、寧ろ日本の男子の方が氣の毒な境遇に立つし居らるゝやうに思ふ。何故ならば日本の男子には

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭を持つて居ない方が多い。理想の妻と同棲して、家庭を唯一の樂しい慰安所、理想的の家庭を持つて居らるゝ男子は、日本には甚だ少ないやうに思はれる。其證據には、日本の男子方は、何か大切なことに出遇つた場合にも、家に歸りて妻に相談しやうと云ふまでの信用を、妻に對して有つて居らぬ計りではない、動もすれば家庭以外に出て、大事を相談し、快樂を求めやうとして居られる云々」と語つて居る。これたしかに一面の觀察である。日本男子の婦人觀を改めなければならぬといふ事は、我徒平素の主張ではあるが、それと同時に、婦人自身が今少しく向上して來て、男子をして尊敬せしむるに足る（せめては相談對手になる位だけでも）人格と見識とを備ふるといふことが先決問題であるかも知れぬ。

看護婦の教化事業

警視廳の栗本第三部長は、看護婦の墮落に就て嘆じて曰く『彼等が博愛の上に立つべき身だのに、斯く墮落を極めてゐるのは全く虛榮にのみ憬れ何等の精神上の教育が無いからである。歐米の看護婦は實に見上げたもので患者の如何を問はず、ベストを盡して看護する。夫故歐米では看護婦と言へば、恰も救の神の如く患者の敬意を受けて居る。是といふのも外國の看護婦は宗教的觀念「神は愛なり」てふ基礎に立ち、彼の有名なるナイチンゲールを自己の胸中に籠めて患者に接するからである。日本の看護婦にも基督教なり、佛教なり、何か精神教育を授けて光明的自己の職分を完うさせたいものである云々』と。矯風會は既に之等の點に就ては盡力して居る事とは思ふけれども、今一いき進んで看護婦の傳導、及び彼等の爲めの精神教育に盡して貰ひたいものである。之は男子の傳道者よりも婦人矯風會などが最も適當した事業ではないかと思はれる。

横須賀風紀・警察の活動

横須賀花柳界は、由來陸海軍御用商人等の遊ぶ者あるも、其大部分は海軍士官で持切る有樣であつたが、横須賀署の岸本署長は、風紀革新の爲め、二業三業兩組合藝妓の淫賣を檢擧するの方針を採り、過日來部下を督勵して嚴重に檢擧を行なひ、九名の藝妓を引致して處罰した爲め、海軍士官の或部分は檢擧を怖れて料理店待合等に出入する者が減少した。それより花柳界の影響一方ならず、昨今著しく寂寞となり、夜に入れば火の滅せるが如き觀を呈して居る。横須賀署の吉川小松の兩風俗係は、夜明頃即ち午前六時頃に、料理店に踏込ん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で片つ端から檢擧をやつて居る。我々は社會の爲め、岸本署長の大活動を多謝するものである。若しも日本全國各地の風俗警察が、斯の通りに活動しだしたならば、社會淫風の廓淸は期して待つことが出來る。それにしても廓淸會員や、矯風會員が、出來るだけ横須賀警察署の爲めに無形の（必要あれば有形の）勢援を與ふることに努力せねばならぬと信ずる。

婦人と讀書

夏期の休みを利用して或は修養會に、講習にと各がじゝ進歩發展の道をたどらるゝも、なか〳〵にゆかしき事でありますが、主婦となりて家政に從事せらるゝ方々にとりては、更に他の道があらうと存じます。其は即ち讀書であります。夫に就て下田次郎氏のお話を紹介致しませう。（一記者）

「婦人に就ては、世界の文明國の中で殊に日本の婦人は書籍を讀まない。從つて書物らしい書物は、婦人には猫に小判と同樣なものである。併しながら婦人の間に圖書館を置くのは沙漠に置くのと自から異らればならぬ。椎茸の煮方はどうとか、干瓢の乾し方はどうとか、其の樣なことを書いたものも書籍の體裁をなしてゐるからには書籍と云へやうが、是等はカーライルの所謂ブックではない。婦人としては家政に關する書籍を讀むのも惡ろくない、結構には結構だが、進んで心の家庭を造る書籍も讀まねばならぬ。此點に於ては私は大に婦人に註文したいことがある。今日の新聞の廣告を最も賑はしてゐるものは書籍雜誌と化粧品と賣藥である。少しく讀書に興味を有つてゐるものは、日々の新聞にどう云ふ新刊書籍があるか、今月の雜誌にはどう云ふ記事があるかと注意する。けれども是は男子のことで、婦人は新刊書籍雜誌に何があるか見向きもしない。見向くものは唯だ洗粉の廣告、石鹸の廣告、化粧品の廣告などで、實質に於て何處がどう異うか知らぬが名も異ひ効能も異うやうに書いてある其れ等の文句を暗記してゐる。私は常にせめて其の熱心の百分の一だけでも新刊書籍雜誌の廣告に向けられたならば、今より更に更に進んで讀書する人間に婦人もなり得ると思つてゐる。極端の言ではあるかも知れぬが、是れ實に日本婦人の現狀である。日人婦人の精神上の水準が西洋婦人よりも遙かに低いのは讀書をしないからである。

外出時の着物の一枚。上着でもよい、下着でもよい、其の一枚に費すところの金があれば、精神上の滋養物として拜むやうな書籍が十冊乃至二十冊買へる。何故か婦人は唯だ僅かに一枚の着物を買ふ爲めに喧騷して其の十分の一にも足らぬ價で立派な書籍を買はうともしない。書籍は謙遜なものである。不要の時には室の片隅に小さくなつてゐて、饒舌りもしなければ騷ぎもしない。そして「さあ」と云ふ時には如何なる場合にも利益を與へてくれる。悲しい時には共に悲しんでくれる書籍もある。樂しい時には樂しんでくれる書籍もある。相談對手になつてくれる。用事が濟めば又室の隅に沈默を守つて控へてゐる。書籍ほど愛すべき益友はない。あゝ書籍なる哉、書籍なる哉、何故に婦人は是れを疎んずるのであらう。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭の教育

未學齡兒童の教育

近來米國の各學校にて兒童教育上一問題となつて居るのは母、親が家庭に於て學齡以前の兒童に自然教育を完全に施す必要があると云ふとである。

▲恐怖心の矯正　玆にその適例がある、嘗て暗い處を恐れる萌だも無つた兒童が一夜惡夢に魘はれて跳起きた、其夜は賺されて辛やく眠に就いたが翌晩は暗さを怖れて獨りでは床に行かない、乃で母は徐ろに床を窓際に引寄せ窓掛を上て廣やかな空に靜かに懸る月姫と其傍を飾る無數の星を指し星の歌を唄ひ且其物語をして聞かせると子供の恐怖心は何時の間にか興味心と化して以來は暗を恐るゝ氣色もなく星なき夜は自ら慰めて風が子守歌を歌つて居るとか、又は雲を呼集めて雪の世界を一晩に作り上るのだとか言て遙に想像力を走らせる樣になつた此爲に母自ら教育の必要なるは言ふ迄もなく、凡ての生を尊重し美を愛する念を持たればならぬ、嬰兒が薔薇の香を知つて花を尊れ、犬と遊び猫と戯れ花を劬はつて水に挿す心の起つた其時が自然教育の時期に逸したので、此時に於て母が表はす好惡愛惜は兒童に如何ばかりの感化を與へるであらう、中で最も戒む可きは前例の如き恐怖の念であるが之は殆ど先天的ではない、稀にある除外例の外は多くは後から養成されるのである、蜘蛛、毛蟲乃至は蛞にさへも、恐怖の念の起される迄は、決して怖ぢも恐れもしない、恐怖は兒童に取つて恐る可き傳染病で又最も感染し易いものである、母たる者常に愼んで徒らに自らの好惡に依て兒童の無垢の心を迷はせてはならぬ。

▲趣味開發の注意　又一日の質問を携へて教師を訪うた一人の母があつた、土曜日は米國の兒童には書き入れの休日であつて一家の主婦なる母に取つては最も多忙なる掃除洗濯日で加之も明日の準備には忙殺される日である、其兒童は此日に何かと遊戯を漁つた末遂に活動寫眞に入り惡結果を齎して如何なる罰則も利かなかつたといふのであつた、教師は始終を聞取つて罰則は已に十分であるが何か他に思ひを移す程の娛樂を與へて見たかと問ふた、母は怪訝な顏に思も寄らぬと言ふ色を見せた、乃で教師は再び母に向つて多忙の土曜日ながら子女の爲めに之を捧げて一日野外に携へて活動寫眞に優る樂みを味はゝせよと忠告した、爲めに子女は喜んで土曜日の母の勞を前日に頒けて約束の日には朝夙く準備萬端整へかくて野外の一日を自然の美の中に暮して終には活動寫眞は兒童に忘られて了つたといふ、之は即ち兒童の趣味を卑きより高きに移した例證である、其方法は如何にもあれ、凡そ兒童に自ら健全に樂む力を養はせる事は人生最大の賜を與ふることである。

家庭の衛生

子供が病氣に罹つたら

△子供が病氣に罹りますと、氣六ツかしくて困るものですから、成るべく輕い間に手當する樣にせねばなりません。

△熱のある時は風に當てるのは謹むべき事であります、そして斯う云ふ時は一番機嫌の惡いものですから腹を立てさせない樣にして置くに限

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

げます。

△乳を吐く時は静かに横に臥かして殊に頭が物に觸れぬ様にして置きますと、直るものであります。

△犬の吼える様な咳はヂフテリヤの疑ひがあるので又ひきつけは子供の病氣中一番恐るべきものですから、醫者に見せる様にするが宜しいでせう、應急手當としては、衣服の胸腹部を開きて緩かにし、冷水で撫で、頭の全部を冷します。

△何所にも身體に故障を認めないのに、夜泣をする時は、着物を着せ換へ頭を冷してやるが宜しい、抱き上げたり揺り立てたりするのは好くありません。

△汗疣は大抵不潔から出るものですから、夏になりましたら、身體をホーサン水で拭い、ホーサン沫と澱粉とを半々に混ぜたものを付けて置くが宜しい。

△卒倒した時は静かに床の上に仰向け寝かし、其顔色の蒼白くなつたものは頭を低くし、赤くなつたものは枕を高くする。

△茸の毒や魚の毒に中つた時には、直ぐに其毒を吐き出させるのが一番であります、けれども素人には出來ぬ事もありますから、左様な時には濃い茶を呑ませておき、そして醫者の來るのを待つのが宜しい。

鼻を垂らす子供

醫學士　寺田豊作氏談

◎青鼻を垂らして居る子供は、以前に比ると餘程少くはなつたが、まだ往々見受くる。それが都會より地方に多く、上流社會よりも下層社會に多い。

◎都會や上流社會の人は比較的衛生思想が發達して、何でも初の中に早く治療するけれども地方殊に下層社會では、鼻汁が出ても單に風邪位と思つて打捨て置くからである。

◎常に鼻を垂らす子供は何處が惡いのかと云に、鼻腔の粘膜に加答兒を起して居るのである。凡べて粘膜に加答兒を起すと分泌物を生ずるもので、呼吸器の粘膜に加答兒を起せば咯痰が盛んに出で、腸の粘膜に加答兒を起せば下痢をする。

◎之と同じく鼻の粘膜に加答兒を起せば鼻汁が多く出る。初めは水鼻でも、慢性になると青鼻に變ずる。青鼻だけで濟めば宜いが、仕舞には腦も惡くなる。馬鹿に青鼻を垂らして居る者の多いのは其證據である。

◎鼻粘膜の加答兒は何から起るかといへば、主に空氣の性質の變動に由る。温度の高低は素よりの事、酸素と窒素との分量加減や、其他の混合物の工合に依つて、人體に微妙の影響を及ぼすので、身體中最も抵抗力の強い部分が先犯される。

◎氣管の弱い人は氣管が先に犯され、腸の弱い人は腸が犯される。鼻加答兒に犯される人は鼻粘膜が弱いからである。

◎黴菌性の鼻加答兒も矢張空氣の性質が素因となつて黴菌を作用かせるので、殆んど凡ての傳染病はかうして起るものと思ふ。従つて空氣の影響を受けない位に、強健な體質を養成することが、鼻加答兒のみならず、萬病に對する第一の豫防法である。

家庭重寶記

●古蚊帳の洗濯法　古蚊帳を解かずに、簡單に洗濯する方法

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、既にお話しなしましたが、古蚊帳の洗濯を本式にしますのは、ばら〳〵に解いた上で、叮重に重ね曾逹三十匁を、水一斗許りに溶かして、二時間許り浸して置いて引上げ、今度は眞水に入れ、好く洗滌するのです、蚊帳の様な目の荒いものは、絞ると滅茶々々になりますから、ソッと水を切るだけにして、竿にかけ、乾かした上で、糊の中に青竹粉を解いたものを着け、元の通りに仕立てますと、全く新らしい蚊帳になります夫れから洗濯する程に汚れて居なくとも、何んとなく厭やな臭氣がすると云ふ様な場合に、その臭氣を抜きますには、乾燥洗濯をするのですが、素人に手輕く出來る方法は、充分に霧水を吹いて置いて、日光に晒せば、全く臭氣が抜けます。（洗濯法教育者高山繁氏談）

◉古新聞と除虫　是は古新聞を倉庫の中などに納めて置いて十年二十年を經過しても、少しも蟲が喰はないと云ふ事から發見した。彼の毛織物のやうな兎角蟲の附き易いものでも、古新聞に密封して布海苔で貼附て置くと、決して蟲に喰はれる虞はないのであります、何故蟲が附かないのかと云ふ事は、化學的研究を要する事でありますが、一寸推測しますと、印刷に用ふるインキの製造には、コールターを用ひて居りまして、其コールターの中にはクレシンも含有して居りますから夫れが除蟲殺菌に効があるのであらうと思ひます。

◉洗淨液富士の水　東京神田三河町（青年會裏門前）丸越商店より賣出したる富士の水は絹、木綿、毛織物、婦人髮洗、食器一切の洗淨用品に適當にして價は安く地質傷まず、手も荒れず手輕く綺麗になるとの事です。價三合瓶入甲種拾錢乙種五錢特製化粧用拾五錢ださうです。

第二十回 婦人矯風會大會記錄

山紫水明の京の地に袂を別ちてより既に一歳、或は内に或は外に各々全力を盡して勵み合へりし我等は、この東都麻布區鳥居坂東洋英和女學校に勝利の音づれもたらして再び集ひ來りぬ。

七月十日午前九時半發會を告ぐる鐘聲と共に、講堂に寄り來りし我等は綠美しき室内の裝飾のすが〳〵しさに先づ勇氣の湧き出づるを覺えぬ。

▲祈禱會　讚美歌二四五番の合唱ありて祈禱會は會頭司會の許に開かれ聖書（詩篇二九）の朗讀あり、讚美歌二四六を歌ひ數名の熱誠こもれる祈禱ありて後、主の祈を以て閉會す。

▲開會　斯くていよ〳〵大會に移り、本多副會頭聖書（詩、一四六）を朗讀し、井深姉の祈禱あり。次で出席支部長並びに代員點呼の後本部記錄書記（井深花子）の報告ありて、異議なく全會一致を以て承諾。

▲執行委員　大會執行委員の撰定は會頭の指命により左の數氏と決す。委員長、小崎千代子。接待委員、根本とく子、中澤とう子、渡邊錄子、藤本こま子、上野みつ子。會場係、加[illegible]たゐ子、林部ちゑ子。裝飾係、杉本鋭子、鈴木すゝ子、倉地やす子、田口やす子、小山まつ子。新入會募集委員、大關ちか子、林うた子、中澤とう子、岩本久枝。婦人

新報購讀者募集員、阿部つる子、土居かめ子、城のぶ子、渡邊常子。會計調査員、城のぶ子、ガンドレット恒子。徽章係、守屋東子、今村かつぢ、岩崎はるゑ。選擧委員、井深花子、萬代要子、十時きく子。音樂係、今諏訪せい子、安藤ちゑ子、水野きく子。會場書記、南波あや子、安中はな子。

▲會頭演説　斯くて會頭は矯風會沿革の概略に添へて將來に對する希望を述べられつ。

渡邊常子姉は一同起立して過去二十七年間の會頭の御盡力並びに萬里の波濤を越えてこの異境に專ら主義の唱導に盡さるゝミス、デビスの御熱誠に對し感謝の意を表しては如何と述べられ、一同起立して感謝す。

ミス、デビスは萬國基督教婦人矯風會總裁カーライル伯夫人の寫眞を全會に示して後之を會頭に進ぜられぬ。こは東洋英和女學校のミス、ハーグレーブが一昨年、スコットランドに開催したる萬國大會の席上に於て伯夫人より托されしものなりとぞ。此時會頭は我が矯風會が其内的方面に於て、過去數年間着々進歩發達なし居るの事實を附加し、我等の前途の光明を指示せられぬ。

▲議題提出　小崎委員長は議題の提出を全會に促がしたるが、井深姉はミス、デビス御留任を萬國本部に請願するの議を提出せられ。尚渡邊姉は第二十年祝賀會の事に就き質問せられ、小崎委員長之に應へらる。又同委員長より大會執行中の各出席者の責任、事務所建築費寄附金等の事に就き注意ありたり。靜岡支部城姉は本部役員の地方出張演說を請はれ、高原姉も筑前若松原かめ子姉より同様の來狀ありたりし旨を述べらるゝ。時は移りぬ、讚美歌三〇八を歌ひ主の祈を以て十二時閉會す。

▲書記報告　同日午後二時開會、讚美歌、祈禱（本多副會頭）の後井深姉は代員證明書を朗讀し、高原姉は通信書記報告をなす。渡邊姉は右報告中の牛込新支部の設立につきては藤本こま子及三井ちか子を兩姉御盡力の多大なりしを報ぜられ、滿場一致を以て右報告に承諾を與ふ。

▲靑年部報告　ガンドレッド恒子姉の報告あり、異議なく承諾。

▲少年部報告　守屋東子姉の報告中少年新報發行部數九千部餘とありしは一萬六百部と訂正して異議なく承諾。

▲會計報告　小崎千代子姉より報告あり。異議なく承諾。

▲婦人新報々告　高原孝子姉報告（編輯者の勞苦を多とするを述ぶるものあり）異議なく承諾。

▲萬國本部派出員報告　杉本姉代りて報告書朗讀、承諾。

▲緊急動議　小崎姉議長席に着き、明日午後チヤペル夫人葬儀に代員派出のため役員選擧を午前に繰上ぐるの件を議題とし、全會一致を以て可決し總代として栗屋、杉本兩姉を擧ぐ。

主の祈を以て四時閉會す。

* * * *

▲祝賀會兼歡迎會　午後七時女子學院有志の奏樂、戸川姉の祈禱本多副會頭の歡迎の辭に次で再び女子學院有志の合唱あり、「夏は來ぬ」てふ調べの淸々しさに淸新の氣室に充ちぬ。

小崎姉は各支部より第二十年祝賀記念寄附金五百十四圓餘に對し懇なる感謝の辭を述べ、本部より記念品を贈らる。神戸小磯姉の祝辭は岩本姉代讀す（尚小磯姉より金拾圓を事務所建築費に寄附せらる。）次で林うた子姉の祝辭、東洋英和女學校生徒のピヤノ獨奏、宮森、渡邊兩姉の祝辭ありて一同食堂に移り、茶菓の饗應に打くつろぎつゝ女子學

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

院有志の輕妙なる餘興に歡を盡しぬ。尙ほ佐野氏の有益なる談話あり、喜びの中に散會せり。

*　　*　　*　　*

▲青年部臨時集會　七月十一日午前八時、司會者ガンドレット恒子、讃美祈禱の後、吉崎姉、守屋姉の感話あり、ガンドレット姉の奬勵の言終りて後、祈禱を以て議事を開始す。議事は(一)青年部徽章を新に作るの可否にして、杉本姉は從來の儘なる物を用ふる方可なりと述べ、守屋姉之に同意し、可決。(二)部長は青年部會計を本部會計より分離する事の不要を述べられ、水野姉は之を分離する事に動議を提出し、守屋姉の贊成を以て可決。(三)書記手當に對しての青年部負擔減少を本部に請求する事、及び婦人新報に例會報告を各支部より送らん事の動議あり、贊成可決。(四)部長より新報に何の音信も送らざる青年部に對し、出席各支部の花の課より返信を得ざれば止まざる決心を以て發信し、消息を得し場合には之を部長に報知するの件、可決。尙代員を派出せし青年部は、麻布、神戸、京都、宇都宮、水戸、金澤、山梨、小石川及びフレンドの九部なり。主の祈を以て閉會。

▲支部代員點呼　午前九時奏樂を以て大會第二日の集會は開かれぬ。數名の熱心なる祈禱の後女子學院有志の合唱あり、會頭の祈禱、會場書記の前日記錄朗讀、高原書記の支部代員點呼あり。代員姓名次の如し。

柏木はつ(長崎)宮森ゆか(京都)城のぶ(靜岡)二宮わか、寺本矩(橫濱)松宮しん(前橋)十時まく、宮本京(吳)石川せつ、渡邊錢(芝)奧田ふみ、林うた、堀内あき(大阪)吉田貞、白石こたき(山梨)岡部なを(高崎)金澤なを(富岡)石岡みさ、福田はや(城北)萬代要(堺)渡邊常、大森みつ、野村俊、岩本久枝(神戸)淸水ふき(相州)原かめ代、高原孝(筑前若松)山東葵、高橋なを(赤阪)安福ちゑ、土居かめ、中澤とう、川田つゆ(麴町)ミス、ハラー、ミス、ベンフハインド、ミス、アスボン(在日本外國婦人矯風會。)青年部、吉崎つれ(神戸)高木榮、安中花、倉長よし(東洋、英和)河村まつ、河合つや(金澤)眞木たけの、齋藤峰(水戸)永井さだよ(宇都宮)廣瀨百代、小林よれ(山梨)三浦みき(京都)鈴木すゞ(フレンド)安村鹹、南波あや、大島はるみ(小石川)ミスハーグレブ代理としてミセス、ヒンセントに代員席に着席を請ふの動議あり可決。

▲役員改選　選擧委員長井深花子議長席に着き、議長の依賴に依り二番(ガンドレット姉)は選擧法に就き種々必要なる說明を與へられ副會頭の祈禱を以て選擧に移る。選擧委員萬代姉、十時姉。改選の結果次の如し。

會頭	矢島揖子	副會頭	本多貞子
記錄書記	井深花子	通信書記	高原孝子
會計	小崎千代子		

二番より右役員諸姉に全會を代表して林歌子姉に挨拶を願ひてはとの動議あり、可決。一同起立、林姉より挨拶、次で矢島會頭の答辭ありたり。

▲議題提出　會頭議長席に着き、議題提出あり、(一)「貧困者にして往々其子女をして醜業に從事せしむる者あり、右に就き我等は常に其防止に務め居れど近來は益々盛にこの惡風の甚だしくなれる事とて既に西洋婦人矯風會の方よりも注意あり、就ては從來在外醜業婦取締法に就きて差出し居りし請願書を改めて建議案となし、同志の議員の手を經て之を議會に提出することゝなしては如何」と、會員の硏究を求む(會頭提出)。(二)米價騰貴に伴ふ罪惡及び悲痛に對しての善後策(會頭提出)。(三)青年男女の風敎を害する繪葉書販賣の取締法(松山市パミリ

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ー姉提出)。かくて讃美歌四六〇を歌ひ、主の祈を以て閉會。庭園に於て一同撮影す。

＊　＊　＊

▲財政報告　午後二時女子學院有志の奏樂及び合唱を以て開會。井深姉議長席に着き、岩本姉の祈禱終りて財政報告、小崎千代子。會計報告、富永のぶ子、異議なく承諾。

▲時事問題報告　(一)年々兵士合格の數減少するは黴毒に起因すといふ事。(二)メチールアルコホールの害。(三)東京小石川區にて、藝妓屋を設置されし事に就き(高原かう)尚ほ戸川姉は小石川區内藝者屋創業に就き語らるゝ處あり、米價騰貴も亦この厭しき事實の一原因なりとは實に憂ふべき限りなり。以上議題採決。

▲各課の報告　都合により二三課まとめて採決す。軍人課長、清水ふき子。教育課長、渡邊常子可決。風俗課長、名出姉(林姉代讀)。文書課長、水野きく子。可決。時間切迫せるを以て他は明日にゆづるの議可決。主の祈を以て閉會す。

▲公開演説　午後七時青年會舘に於て公開演説會幷に賞旗授與式開催。順序左の如し。(講演欄參照)

◎矢野恒太氏の「藝者論」を讀む　早稻田大學教授　安部磯雄氏
◎感化の力　救世軍大佐補　山室軍平氏
◎社會の基礎　衆議院議員　島田三郎氏

來會者無慮六百名。賞旗は長崎支部に授與され、神戸、山梨、靜岡、麻布支部は賞金を受領せり。少年禁酒軍優勝旗は秋田にして、大阪りキルミナ少年部及び高輪少年部は賞金を得たり。

＊　＊　＊

▲部課長懇談會　十二日午前九時開會、司會者、渡邊常子。讃美歌、聖書朗讀、祈禱の後、大關姉開會の辭を述べられ。堀内姉社會道德の腐敗せる今日我等は當て純潔なる家庭生活を鼓吹し、以て社會の輿論を高むるの必要を語り、十時姉吳市軍人ホームに就きて語らる。姉は獨力以て苦心多きこの事業の經營に當らる、其熱誠に一同感じ合へり。之にて懇話會を閉會す。

▲蘇蘭に於ける大會　十時女子學院有志の合唱、白石姉の祈禱を以て開會、會場書記の前日記錄朗讀ありて後、ミセスピンセントはミスハーゲレプの懇切なる御書狀を會衆に披露せらる。書中ミスハーゲレプは一昨年スコットランド、グラスゴーに開催されし萬國大會に出席せられし時、麻布青年部に優勝旗を得たる喜ばしき音信を報ぜらる。

▲追悼會　昨年七月より今年までの間に神の御召により昇天せられし諸兄姉のため、城戸姉、ミススペンサー守屋姉等は諸友生前の性行を語られ弔辭とし、城姉の祈禱、讃美の後會衆諸共主の祈を以て會を閉ぢぬ。永眠せられし人々次の如し。

本多監督、チャペル夫人、二宮御夫人同令息、家田茂子、緒方八千代、太戸きし子御夫人、梅田ふみ子、今田福子、木下つる子、平田高子、中村たづを。

＊　＊　＊

▲新任課長　午後一時半井深姉司會の許に開會、ガンドレット姉の祈禱高原姉より新任課長の報告あり、左の如し。

法律課長、矢島楫。軍人課長、清水ふき。同副課長、富永のぶ。母之會課長、栗屋榮。懸賞文學課長、未定。教育課長、渡邊常。教育課副課長、阿部つる。風俗課長、名出豐。同副課長、湯淺はつ。文書課長、水野きく。安中はな。交際課長、淺井やす。同副課長、武友梅代。傳道課長、渡邊しげ。動物優待課長、武田よし。禁煙課長、根本

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とく。衛生及遺傳課長、大關ちか。工女課長、パンフハインド。∴同副課長、守屋東。救濟課長、島田のぶ。無酵課長、福田とし。議事法研究課エリス。花の課長、城戸順。∴安息日課長、山東泰。

▲各課報告　禁煙課、根本とく。衛生課遺傳課、大關ちか。工女課、パンフハインド(守屋姉代讀。)花の課、城戸順。安息日課、山東泰。母の會課、栗屋榮。救濟課、島田のぶ。無酵課、福田とし(右二課高原姉代讀。)以上一括して異議なく可決。

渡瀬姉、慈愛館維持及増築基金に就き寄附を求む。渡邊姉米價騰貴にて饑餓に泣ける貧民のため寄附金を募集したき議あり、全會一致貧者のため應分の寄附をなす。

▲少年青年部　午後二時劉喨たる進行曲音に合せて入場せし八十餘名の兒女、さながら生きたる花の咲き出でたるが如く、大會々場は一樂園と化し終りぬ。聖句暗誦、少年部、祈禱、杉本姉開會の辭、守屋東、お話。神戸青年部代員、ピアノ獨奏、英和少年部軍人。次いで銅メタル懸賞演説會開始。先づ審判官諸姉の紹介あり、直に競爭演説に移る。

蟋蟀、銀座少年部。老婆の述懷、英和少年部。ねずみと猫、高輪二友のかなしみ千駄ケ谷少年部。蜘蛛の巣、矢來少年部。商人の失望、小石川少年部。どちらを御選になりますか、フレンド少年部。右終りて小石川青年部の合唱、ガントレツト姉のお話、麻布青年部の獨唱ありて賞牌受領式に移る。

賞牌受領者、銀座、小関順一君。∴各出演者に記念物の進呈あり。ガントレツト姉の祈禱、大隊敬禮を以て閉會。後女子學院有志の餘興もありたり。

▲殘務處理　司會者小崎千代子、大關姉の新入會員募集報告、城姉の婦人新報購讀者募集の報告及び同姉の會計調査報告あり、可決。次に小崎姉工女課の會計報告をなし、以後愛隣女塾の會計は守屋姉に引渡すべしと述らる、尙同塾の前途は頗る多望なりと。ミスデヒス留任請願の件は總て大會の決議にて會頭に一任する事に可決。來年度大會々場は未定、小崎姉大會々場を引受るは容易の業にあらず、各代員實費を支拂ふ位の覺悟を持ては如何と述られ、贊成者もありしかども、結局從來の通りとする事に決す。來年度會場につきては矢島、渡邊兩姉を委員として甲府支部へ交涉する事とす。貧民救護寄附金總額二十四圓、右は總て之を救世軍に贈る。(依頼狀を添ふ)斯くて主の祈を以て閉會す。

▲親睦會　午後七時より親睦會を開き一同歡を盡して九時過散會。斯くて樂しく有益なりし第廿回大會も無事終了。希望に充てる一年の活動を約して退散しぬ。

なんぢら神の子らよエホバに獻まつれ榮とちからとをエホバに捧まつれ（詩二九ノ一）

* * * *

過去の一年間

萬國基督敎婦人矯風會
本部派出員　ルース、エフ　デビス

逝きし春の花の面影を慕ふよりも、寧ろ來らん秋の錦の繚模様の工風に意を凝し度いと希望致しますのが私の性質で御座いますから、年々歲々定まつた時に殆んど定規に嵌まつた樣な項目の下に過ぎし一年間の出來事を綴りまするには餘り興味を持ちません。それに私の致しまする報告は、實は私が僅に一の方便的機械としての活動の報告に過

ぎないのでありましたから、いまだ曾て報告記錄に充分の滿足を感じたことはありません。然し本年は稍か諸姉に申上る事がございます故に喜ばしく存じます。

▲オランダに於ける萬國非酒精研究大會

昨年の夏皆樣と御別れ致して日も多く重れません同じ七月の末つ方急に東京を出立致し、東海道、山陽線を後に下の關を經て、サイベリアの廣漠を横ぎり、オランダ國に向ひました。昨年の八月同國に開かれましたる萬國非酒精研究大會は第十三回目でありました、此處に私が出席の出來ましたのは非常な好機會とその幸福を深く感謝致しました。御案内と存じまするが、オランダ國の女王は民草を救ふ一大手段は禁酒の精神を國民に普及することであると信じて居られます、それ故特に此の非酒精大會を同國に招待された理由であります。此大會に出席せられました世界萬國からの代員の數は千三百人でありまして、世界の殆んどあらゆる文明國の政府を代表した人々で、學者も醫學博士も、政治家も、立法家も、宗教家も、敎育家も同じく自國に於ての禁酒會事業の發展、現今の社會の狀態研究、又將來に於ての禁酒事業普及の良策等を討論せられました。

▲日本に於ける矯風事業を紹介

北米合衆國のタフト大統領は十二人の代表者を此の大會に出席致させましたが、私の母はその十二人の内の一人でありましたから、私の第一番の嬉悅と滿足は久々で父母に面會致した事でありました。偖てこの大會に於て私が父母に面會した事が私にとつて最大幸福なことであつたと致しますれば、第二の私の幸福と感じました事は、暫時ではありましたがプラットホームから日本國に於ける矯風事業の模樣を述べることの出來た事でありました、まづ矢島會頭の御消息を冒頭に過古二十五年間の矯風事業の奮鬪、及び近來日本國一般人心が禁酒に傾きつゝあること等の概略、實に日本國は東洋の一美國として世界に知られて居りますから過ぎし三十年間に日本國に就ての著書は隨分夥多でありますが、或は貴國の風景を歌ふ者、稀に歷史文學、政治の稍々を語るに過ぎませんから、未だ日本の禁酒事業、矯風主義の發展等に就いての智識等は殆んど世界に知られて居りませんと申しても過言ではございません、隨分日本通として他人も許し、自身も斯く心得て居らるゝ學者方の内にも、日本の矯風事業の智識はもたれませんから、私は無論皆樣の熱心なる御活動、日本禁酒會の大發展、又少年禁酒軍のことまでも語りまして、現今世界に於ての禁酒主義者即ち私共と心を一にして居られまする御歷々に日本矯風會を紹介いたしました。私が日本を出立致しました時に禁酒矯風に關する小冊子、雜誌等を携へましたので、それを係員に渡しましたところ、日本文字の書類は他國の禁酒書類と共に公衆の觀覽に備へてありました。ところが無論日本文字を解する人等は此處には居られませんでしたにも拘らず、他國の書類よりも一層公衆の注意を集めたと云ふのは、矢張現今日本は世界から羨望されて居るからでもありませうが、又日本の風景の美に伴なつて日本の禁酒事業の美華も今や咲かんとするを人々が遙に望見した事と存じます。

▲酒精研究の結果

此の大會に置きまして醫學の大家は英、米、獨、佛國人でありまして酒精を科學的に研究された結果を發表されたのであります、全會一致の定義は左の通りでございました。

「酒精なる者は何れの點よりして見るも身體の構造を助くる功能は微塵も無く、却て體内の機關一として酒精によりて毒せられぬ者はない」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

といふことでありました。又酒精中毒は病患であること恰も結核病、窒扶斯が病患であると同じく一種の病患であるから他の病患を防止することを社會の急務とすると均しく、酒精中毒病をも社會一般が恐れて防禦することは、現世紀の急務であるといふことでありました。

教育家側では社會改良策から禁酒主義の普及を論ぜられて、或はビヤホールなるものを滅し、替ゆるにミルクホールを以てし、或は酒店（居酒屋）（サルーン）の場所に禁酒主義實行の簡易料理店を設くる等も一手段であるといふ議論も大分識者の耳を傾けました。

政治家の意見は輿論を動かし立法家を醒まし、遂に議會に訴へ、法律の權威を以て酒精毒を社會から 退けることに務め、同時に又一方に於ては酒精中毒より來る犯罪は只に入獄の刑を與ふるばかりでなく、酒精中毒を病患として 扱ひ、根本的に治療せねばならぬと說かれました。

兎に角この大會に會合せられし世界の代表者は各方面の人 物でありました故に、ありとあらゆる方面から酒精問題を解 釋せられましたから裨益することは多大でございました。（以下次號）

四十四年度記錄書記報告

本部記錄書記　井深花子

一常置委員會開催の度數十一回

一同臨時委員會三回

決議案の主なるものは左の如し

一受牌社經營に關する件

一受牌社主任並に名稱變更の件

一慈愛館主任マコーレー氏辭職に付後任者撰定の件

一本部專任書記辭職並に候補者撰擇の件

一婦人新報發行人並に編輯人の名義變更の件

一婦人新報保證金追納金八百圓金策の件

一米國觀光團へ會頭の名義を以て勸告書を發送する事

一事務所建設並に建築に關する件

一米國軍人課々長サチャー夫人歡迎準備

一大會準備事項

一課長並に副課長補缺の件

本部會計報告

自明治四十四年七月
至同　四十五年六月

會計　小崎千代子

收入

一金四百二十圓也

內譯

一金二百十七圓五十錢	前年度より繰越金
一金百三十二圓五十錢	本年度義務金
一金七十圓	特別寄附

支出

一金三百〇八圓五十五錢也

內譯

一金百圓	婦人新報補助
一金六十六圓五十錢	本部書記補助
一金五十一圓十一錢	米國本部へ義務金

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一金十九圓八十一錢	通信費
一金十一圓十八錢	歡迎費
一金二十圓	工女課補助
一金十圓	少年部
一金五圓	文書課
一金五圓	法律課
一金五圓	教育課
一金二圓五十錢	軍人課
一金四圓五十錢	會頭旅費
一金一圓二十五錢	郵税

差引殘金百十一圓四十五錢也

明治四十五年義務金收入

一金一圓	朝鮮大邱	一金三圓二十錢	原市
一金一圓五十錢	宇都宮	一金二圓五十錢	横濱聖經
一金十八圓三十錢	西洋婦人	一金二圓	山口
一金六圓二十錢	弘前	一金四圓二十錢	岡山
一金二圓十錢	安中	一金六圓	甲府青年
一金四圓五十錢	靜岡	一金四圓三十錢	弘前青年
一金二圓五十錢	赤坂	一金三圓二十錢	フレンド青年
一金十圓三十錢	鳥居坂青年部	一金一圓八十錢	金澤
一金二圓	前橋	一金三圓六十錢	小石川青年
一金二圓五十錢	堺	一金九十錢	藤岡
一金五圓	横濱	一金四圓	函館遺愛青年
一金三圓	矢	一金十圓	麹町
一金二圓	筑前若松	一金七圓二十四	京都
一金一圓六十錢	富岡	一金一圓二十錢	北陸女學校
一金二十圓五十錢	神戸	一金一圓	仙臺
一金三圓二十錢	相州	一金三圓六十錢	長崎
一金一圓	信州小諸	一金一圓二十錢	高崎
一金二圓五十錢	旭川	一金五圓	甲府
一金二圓	佐賀	一金二圓	松山同情館
一金四圓十錢	芝	一金七十錢	福岡
一金三圓四十錢	城北	一金二圓八十錢	神戸女學院青年
一金三圓五十錢	大阪	一金四圓二十錢	鹿兒島
一金一圓五十錢	熊本	一金六十錢	會津若松
一金三十錢	岡田保茂子	一金一圓二十錢	盛岡

外に大會開會中領收せし分は此決算に入らず

四十五年七月大會々計報告

收入

一金百十六圓五十錢也

内譯

一金三十二圓〇五錢　繰越金

一金八十四圓四十五錢　本年會費

支出

一金六十八圓四十三錢也

内譯

一金二十三圓　青年會々場費用

一金二圓五錢　大會執行順序書

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一金三圓六十錢　演説會廣告
一金五圓　廣告配布手數料
一金七圓五十二錢　案內狀印刷、郵稅
一金三圓　チャペル夫人弔儀
一金七圓二十錢　委員車代
一金六圓　辯士車代
一金五圓　速記者謝禮
一金二圓〇一錢　寫眞代
一金一圓五十錢　リボン
一金一圓八十三錢　報告用紙發送費
一金五十六錢　紙代
一金十六錢　ピン代
差引殘金四十八圓〇七錢也

四十五年大會々費收入

一金一圓　前橋
一金一圓二十五錢　堺
一金五圓四十五錢　麻布鳥居坂
一金二圓　横濱
一金一圓〇五錢　安中
一金三圓十錢　弘前
一金一圓二十五錢　横濱聖經
一金一圓　山口
一金二圓十錢　岡山
一金九十錢　金澤
一金一圓八十錢　小石川青年
一金四十五錢　藤岡
一金二圓　函館遺愛
一金一圓　呉
一金五十五錢　麻布
一金一圓　筑前若松
一金六十五錢　高岡
一金十四圓三十五錢　神戶
一金三圓　甲府青年
一金一圓六十錢　フレンド
一金一圓二十五錢　旭川
一金二圓　城北
一金七十五錢　熊本
一金一圓五錢　北陸女學校
一金五十錢　仙臺
一金二圓　佐賀
一金一圓八十錢　長崎
一金六十錢　高崎
一金一圓六十錢　相州
一金五十錢　小諸
一金二圓五十錢　甲府
一金十四圓八十錢　大阪
一金一圓九十錢　神戶女學院
一金三圓六十錢　京都
一金二圓　長府
一金二圓　木下氏寄附
一金一圓　十時姉同

第二十回紀念事務所建設費獻金

一金十圓　旭川
一金四圓　函館遺愛
一金二圓　堺
一金二十五圓　名古屋
一金二圓　安中
一金一圓五十錢　彥根
一金一圓　藤岡
一金三圓　靜岡
一金八圓八十三錢　東洋英和
一金七圓　山口
一金五十錢　一ノ關少年
一金三十圓　城北
一金三圓五十錢　若松
一金二拾圓　京都
一金五圓　呉
一金二圓　小石川青年
一金三拾圓　麴町
一金五十圓　神戶
一金十二圓五十錢、下ノ關
一金百圓　芝
一金十圓　小磯みと
一金百六拾圓　大阪
一金七圓　山梨英和
一金五圓　岡山

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一金十圓　赤坂　一金五圓　前橋
一金十二圓　上毛婦人會　一金三圓　神戸女學校
一金五圓　山梨甲府　一金五圓　横濱

大會接待費寄附金

麹町婦人矯風會寄附

一金拾圓　矢島　楫　一金拾圓　山本　たほ　一金五圓　土居　[illegible]
一金五圓　中澤　とう　一金參圓　島田　信　一金貳圓　井上　とも
一金貳圓　佐柳　うの　一金貳圓　中村　松の　一金貳圓　高原　かう
一金貳圓　中川まさご　一金壹圓　牧野　清　一金壹圓　河原　[illegible]
一金壹圓　太田　敏　一壹圓　池上　豐　一金壹圓　田村　まさ
一金一圓五十錢　積穗　十五　一金二圓五十錢　安生　清　一金壹圓　鹿子木つや
一金壹圓　鹿子木　靜　一金壹圓　安嗣　ちゑ　一金五十錢　郷永　とめ
一金五十錢　三谷　たみ　一金三十五錢　三浦　次代　一金十三錢　郷越　かつ
一金壹圓　網島　ふさ　一金壹圓　木村　ふせ　一金壹圓　內田　よし
一金壹圓　竹越　竹代　一金壹圓　古家　かつ　一金壹圓　水野　[illegible]樹
一金壹圓　元田　てい　一金壹圓　栗原　榮　一金壹圓　岸田　つる
一金壹圓　中川　せん　一金壹圓　藤本　こま　一金壹圓　奥山　有志
一金壹圓　山室　ゆう　一金壹圓　加藤　咲　一金壹圓　中村　くに
一金壹圓　內海　きん　一金壹圓　勝屋　とよ　一金壹圓　森岡　たみ
一金壹圓　渡邊　とよ　一金壹圓　畑　たり　一金壹圓　富永　のぶ
一金壹圓　岡林　たね　一金壹圓　矢守　治作　一金壹圓　平野　はる
一金壹圓　和久山こま　一金壹圓　岡林　たね　一金壹圓　荒城　まつ
一金壹圓　益富　きの　一金五十錢　小倉ふみえ　一金五十錢　田邊　こと
一金五十錢　永田　りう　一金五十錢　川崎　まさ　一金五十錢　津田　みや
一金五十錢　津田　まり　一金五十錢　弓削田てる　一金五十錢　首藤　八重
一金五十錢　桑田　とみ　一金五十錢　阿波　[illegible]　一金五十錢　日賀田ふみ
一金五十錢　船曳　みき　一金五十錢　磯邊　あや　一金五十錢　高橋　りよ
一金五十錢　福田　とし　一金五十錢　橋本　けい　一金五十錢　高木　ゆき
一金二十錢　加藤　りせ　一金二十錢　荻野　たか　一金二十錢　村上　[illegible]
一金五十錢　平岡りやう　一金五十錢　前島　きそ　一金壹圓　三井　せい

計金九拾四圓拾七錢也

芝婦人矯風會寄附

一金貳圓　井深　花　一金五十錢　井深　八代　一金一圓五十錢　奥平　とし
一金貳圓　岡田　なか　一金貳圓　根本　とく　一金一圓五十錢　原口　ふさ
一金二十八錢　大庭　花　一金貳圓　石川　みと　一金壹圓　川上　かれ
一金壹圓　荒井　桐月　一金參圓　南波　つれ　一金一圓六十錢　矢島　たみ
一金貳圓　大倉　みち　一金一圓六十五錢　堀田　とみ　一金一圓五十六錢　岡野　とよ
一金一圓二十八錢　吉成　操　一金一圓五十錢　田尻　久米　一金一圓五十錢　小西　むめ
一金壹圓　荒木　つれ　一金一圓五十六錢　和田　てる　一金壹圓　石川　せつ
一金四十錢　中村　みほ　一金五十六錢　淺井　ふさ　一金五十錢　河崎　あい
一金貳圓　渡邊　[illegible]　一金一圓六十五錢　川崎　はな　一金壹圓　加治木まん
一金貳圓　長尾　なみ　一金壹圓　鵜飼　たへ　一金一圓六十五錢　近藤　[illegible]
一金壹圓　[illegible]　けい　一金拾錢　佐藤　きく　一金參圓　佐竹　松枝
一金五十錢　小林　千代　一金壹圓　ミス、デビス　一金貳圓　佐竹　ふみ
一金一圓七十六錢　平川　むめ　一金五十錢　竹內　みよ　一金壹圓　戶根　せき
一金三十錢　山本夫人　一金六錢　小林　しん　一金壹圓　松本　常子
一金壹圓　杉木　[illegible]

計金五拾四圓七拾壹錢也

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新版

恩寵溢るるの記

定價壹圓
郵税十二錢
菊判・クロス

曩きに「聖戰」を譯してバンヤンの筆致に親しめる松本雲舟は今や五ヶ月の刻苦精錬を以て本書を譯出せり。本書はバンヤンの自敍傳にして、四ヶ年に渡る彼が煩悶苦鬪の結果、辛うじて眞正の信仰に辿り着きたる深刻骨に徹する實驗記を始め、滿十二年間の獄中生活に於て如何に彼が神の恩寵に浴せるか、又いかに大膽に信仰の敵者と戰へるかを詳細に記述せり。バンヤンの大傑作たる「天路歷程」を活きたる事實として讀者の眼前に躍如たらしむるは實に本書也。信仰の友として偉大にして然かも懷かしきバンヤンの生涯は本書の裡に活けるがごとし。

本書は實にアウガスチンの懺悔錄に優るも劣らざるの價値を有す。加ふるに雲舟氏の譯文は世すでに定評あり。端麗にして平明なる口語體を用ゐ讀者をして難解なる古書を讀むの勞苦なからしむ。卷頭に附せる「バンヤン傳」は雲舟氏の多大なる苦心に成るものにして材料極めて清新、本書の背景を描いて一段の光彩を放てり。

■バンヤンの大傑作出づ譯者は松本雲舟氏■

發兌 東京銀座 警醒社書店 振替東京五五三番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治四十五年六月廿五日 第三種郵便物認可　婦人新報第百八十一號　大正元年八月十日發行（毎月一回八日發行納本）

本誌定價一部金六錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA